

鳥越明日香 様

佐賀市副市長の白井誠と申します。

2010年(平成22年)、唐津の地に人形浄瑠璃の灯をもう一度灯したいと願う竹本鳴子先生をはじめ有志の方々が、唐津市内のとあるお店に集まり、思いの実現に向けて話し合いを始められました。

私は唐津市出身で、当時、佐賀県庁に奉職して佐賀市内に住んでおりました。日頃より地元唐津の方々とは親しくお付き合いさせていただいておりましたことから、私もその会合に参加し、竹本先生ほか志を同じくするメンバーの方々の熱い思いに心打たれ、誠に微力ながら立ち上げのお手伝いをさせていただくこととなりました。

当時、人形浄瑠璃再興の思いは強くあれど、それ以外は資金もなく、肝心の人形もない状態での船出となった私たちでしたが、皆さん知恵を出し合い、足を運んで、賛同していただく方々をお一人お一人募ってまいりました。

この時に物心共にお世話になったのが故鳥越文藏先生でした。唐津のことを思い、愛情を持って、私たちをご指導いただいたおかげで、私たちは、翌2011年(平成23年)6月5日、唐津市内の旅館「洋々閣」で唐津人形浄瑠璃保存会の発足式を迎えることができました。

洋々閣では、鳥越先生と竹本先生との対談なども催され、私はこの時初めて鳥越先生にお会いし、温厚なお人柄に接して、心から感謝申し上げたことを昨日のこのように覚えています。

先生には、その後もさまざまな面でご助言、ご指導をいただき、また、国内で使われなくなって活躍の場を失っている人形の情報なども教えていただきました。

唐津人形浄瑠璃保存会が今このようにして立派に活動されているのは、もちろん保存会の皆さん方の献身的な努力あってのことですが、皆さんの活動を精神的に支えていただいた鳥越先生のご貢献は本当に大きかったと思います。

その先生を失ったときの私たちの悲しみは言葉に表せないほど大きく、わが国においても、元禄歌舞伎の文献学的研究を極められ、日本各地の伝統演劇を大いに盛り立ててこられた先生を失ったことは、関係者の方々に大きな喪失感を与えたことと思います。

この度、先生のご遺志で唐津の海に散骨していただくことは私にとって望外の喜びであり、保存会の皆さん方も大いに喜んでおられることと思います。

これから、先生の魂と共に、先生が育てこられた唐津人形浄瑠璃が唐津の地でますます発展していきますよう祈念しております。

令和5年3月26日

佐賀市副市長 白井 誠